

伊賀東照宮宗敎会報 第4号

令和4年12月15日発行

ご挨拶

宮司 稲葉 喜代子

ご崇敬者の皆様、各地よりご参拝戴きます皆様には、益々ご清祥の段お慶び申し上げます。

日頃は、伊賀東照宮の護持・運営に付きまして多大なるご支援・ご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

本年も、令和四年壬寅歳が残り少なくなつてしまひました。御祭神徳川家康公の生まれ年である、天文十一年壬寅年から令和四年十二月二十六日には、御誕生四百八十年を迎えますにあたり、遍く一層のご神徳を頂き、今こそ私たちは神様に感謝の誠を捧げ、御皇室を頂き神宮さま・氏神様・崇敬神社へ日々の祈りを神棚をとうして、ご一緒にしてまいりました。

症の収束の見通しも見えず、今日までは感染対策を取りながら、各神社祭礼等々の縮小、自粛、参拝者の減少となる影響から、今年の夏ころより全国の神賑行事等々が戻りつつ、規制も緩和の中、第八波もと囁かれる今日ではあります。がかり疫病、ロシアのウクライナへ

の侵略戦争、気候温暖化による地球変動、円安、物価高騰との現状下、今私たちに警告と反省を、問われているのではと思う日々、一日も早い収束、終結を願い祈る日々です。

迎える年は明るく、輝く年と世界が平和でありますよう祈念申し上げます。



# 伊賀東照宮宗敎会報

第4号

発行所  
伊賀東照宮社務所  
三重県伊賀市老川1103-2  
TEL 0595-55-2512

令和の御代の記念事業 中間報告

令和四年四月五日竣工奉告祭斎行政

（但し水洗式工事は、建設資金不足により一時凍結）

一、電気工事  
ガス設備・その他

一、手水所  
新型コロナ感染症の為、均撤去  
エアコン新調・提灯電気工事

一、ポンプ所  
手水自動センサー式に工事

一、屋根改築工事  
工事請負業者名  
カケダ厨房設備 伊賀市  
榎川板金店 伊賀市  
電化のイクタ 伊賀市  
その他 名張市  
伊賀市

奉獻者  
伊賀市種生 竹森塗装店殿

外壁・外階段等々塗装工事  
道路端トイレ内・塗装工事



伊賀東照宮年中行事

1月1日	歳旦祭
1月7日	新年祈祷 一月中
1月15日	七穂祭 山の神祭
2月3日	小豆粥祭 古札焼納祭
2月17日	節分祭 湯立神事
4月17日	厄除祈願祭 二月中
6月17日	春季例大祭
6月29日	水無月（夏越の大祓祭）
6月30日	崇敬者の大祓祭
7月7日	夏越の大祓祭 神職のみ
7月29日	天命祭
10月17日	七夕さきよ夏まつり
11月17日	創始者月次祭
12月17日	新嘗祭
12月26日	神宮大麻曆颁布始め祭
12月31日	秋季例祭
1月17日	師走の大祓祭
1月26日	崇敬者の大祓祭
1月29日	徳川家康公生誕祭
1月30日	大國主命御神像拝受鎮座祭
1月31日	師走の大祓祭
2月1日	除夜祭
2月17日	御幣15ヶ所献供
2月27日	鏡餅55ヶ所献供
3月1日	毎月の月次祭は、1日、17日、26日（月生誕祭）、27日、29日に行っています。
3月17日	毎月1日、17日の祭儀斎行前には、参列者一同、日本国と世界の平和、御
3月26日	皇室の弥栄をお祈りしており、26日、27日、29日は神職のみの奉仕となります。

# え越賀公伊公康家

(その1)

歴史研究家  
奉賛会会長

杉本 友幸



私は信楽の小川の里に生まれ、子供の頃は小川城の山のふもとで元気一杯遊んで育ちました。そして、昭和四十年三月に京都祇園の寺沢豊店に奉公に行き、京都の文化財に触れ、日本各地の建築や、京都祇園の料亭、京都東本願寺、鈴虫寺などの豊を作らせて頂きました。東本願寺は出仕事に二十日間、全部で四千豊あるうち、大広間の九百二十七豊分を手がけ、日本の文化を学びました。昭和由十八年に信楽に帰り、豊店を経営しながら信楽の歴史や文化を学び、現在に至ります。

平成二十年四月から五ヶ月間かけて、本能寺の変直後に、徳川家康公が大阪の堺から岡崎に逃れた街道を、自分の時間を見つけて辿り、四千枚の写真を撮ることが出来ました。

飯盛山付近（野崎観音で家康公は、織田信長が明智光秀にやられたことを



大阪夏の陣 平井家

知りました。その時、家康公は京都に行くと言いましたが、服部半蔵正成、本多忠勝など配下の者が岡崎に戻る事を勧めました。穴山梅雪は別行動を取っています。家康公が辿ったルートには、交野市星田妙見宮（小松神社）にある伝家康ひそみの藪、星田公園内にある家康公陣営の跡、名家である星田の平井家、星田神社などがあります。現平井家の方の話によると、家康公が逃亡の際に道案内をした関係から、大阪夏の陣の時に援助を頼まれたとのことです。交野市教育委員会「星田歴史風土記」によれば、元和元年（一六一五）五月五日、大阪城攻めのため、徳川家康公は午前九時に京都二条城を進発、七本の白旗を先に押し立て、金扇の大馬印と、銀の瓢箪を刺して通し、

召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾の

元に切り裂けを付けた小馬印がこれに続きました。白布に「厭離穢土、欣求淨土」という経文を書いた吉例の旗は箱に収めて家康公の駕籠のそばに置かれました。その後、東高野街道を進み、伏見より淀を経て八幡に至り、男山八幡宮の鳥居を右に見て、洞が峠から河内に入り、午後三時大阪の北東十六キロにある星田に着き、理正（村の長）平井三郎右衛門清貞宅に入つて宿陣としました。平井家ではあらかじめ連絡を受けていましたから、一町四方もある広大な屋敷内の北の方にある奥書院を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾したもの）、塩、味噌、鰹節、香の物があれば充分、台所を修繕して待っていたのです。家康公は京都出発の時、台所頭の松平常慶を召し、陣中の糧食は飯米五升、干鯛一枚、糒（ご飯を乾の

家康公の伊賀越えのルートに戻りますが、傍示越道を進みます。傍示の里は十数件の里です。穗谷、三之宮神社は山深く谷陥しき難路です。

尊廷寺（現在、お寺と保育園）、京田辺市一休寺と草内を進み、家康公一行は普賢寺の裏山で食事の調達をしています（民家に古文書が残されています）。家康公一行は、服部半蔵正成と共に木津川の草内か飯岡から、宇治田原、山口城主多羅尾光俊の五男の案内で木津川を渡り、山口藤左衛門玄蕃光広が城主を務める山口城に入りました。

穴山梅雪は木津川にて主従十二名とともに討たれます。信楽街道は宇治田原の西の玄関口である郷之口から贊田、立川、湯屋谷を通り、家康公の一行が休憩したという遍照院、そして、茶屋村を通り、最も東の奥山田の裏白峠（お正月用の裏白がたくさん取れる）を越えて、信楽朝宮、杉山、小川城（多羅尾城主）、中ノ城、西ノ城（徳川家康公が一泊した場所）に至ります。

## 創始者 坂野つなへ姫命の教義

おおなみこと

家康公大神様は『信じる悟りを開く感謝する』神仏の有る事を教えに世にてた神である

一、信じる||疑がいの心を待たないように  
一、悟りを開く||良い方に解釈する

一、感謝する||明日への欲を願うよりも今日一日の感謝をせよ  
東照宮へお参り致しますと、お水にお塩を入れていただきます。これは身も心も清めると言う意味です

(尚、おさがりにお塩と御神米を下さいます)

一、塩は家敷の不浄を祓い身も心も清める 旅行に持つて行くと災難がのがれる  
福徳・金徳・人徳・病気・悩み・交通安全・縁談・子供・何事もかなえて下さいますが真の心が大切です。疑いの心を持たず信じること。

一、生米を御飯に炊いて食べていただきますと、心の中にやがて芽を出しお徳の花が咲き実をならせ、その実を子供・孫迄ゆづりますようにと申されます

『心が萬倍にならすしてどうして目先が萬倍となるはずはなし』神とは天と地・光・水・火・風神があつて、神仏は生まれた。神と仏のお恵みを受けて生きて生かされている。

一、神は信じて感謝すれば不思議と言うお答えを下さいます

神は日々十分のお恵みはあてがつている。病気災難悩み事をお願いに来るのなら日々凡ての物に感謝せよ。そうすれば神は十二分にお答え下さるであろう。欲な心・疑いの心・迷いの心を持つてお参りしては、神は何んのお答えも下さいません。また日々神に負担を掛けていてはだめである。真心でお参りをすれば成就する指針が授かる。



## お祓いの意味

### 七五三祝いの始まりの由来

(いわれ)

古くは平安時代

三歳 男女児 髮置

五歳 男児 褒着

七歳 女児 帯解き

お祓いは、神社のおまつりのうちでも、最も重要な神事といえる。  
正直の頭に神宿る」という言葉を

知っている私たちは、生まれると同時に神様から、みたまという尊い心ねどいう性質を頂いている。

明るく、正しく、清らかな心をすべての人が生まれながらに頂いているが、

人は肉体を持つので、生きていく間にともすると、争い、いつわり、欲望など醜い感情に走り、神さまの心を忘れてしまう。これをけがれ(穢)といつて、身や心がけがれる。従つて、人は

知らず知らずのうちに、(罪)といいうのだ。これは社会生活をする上には仕方のないことで、全く罪・穢を犯さない人間の行動などありえないことだ。

そこで人は、いつもこの心身のけがれをなくして、本来の清らかな姿勢に立ち返ろうと努めなければならないのです。この方法として、大昔から伝えられて来たのが、このお祓いという神事なのです。各神社にてご祈祷の前に先ずお祓い(修祓)を受けるのは、神様に近づくために、必ず行わなければならぬわけなのです。

また、神社では十二月(師走)と六月(夏越)の末に、おおはらいしき(大祓式)という、過去半年の間に受けた罪・穢の一切を祓い清めるおまつりが行われるもの、こんな意味があり



この日は唯一、鬼が出歩かない日とされ、子供の成長を祝うにふさわしいとされた。また十五日の十五は、七五三すべて足すと十五となることから。

※以上のように、徳川家が七五三祝いの發祥と言える。



**当宮では新型コロナウイルス  
感染症予防対策を実施しています**

皆様が安心してご参拝いただけますよう次の通り感染症対策を致しております。

- 一、マスク着用
- 二、手水杓の撤去
- 三、体温測定・手指の消毒剤
- 四、拜殿着座位置
- 五、マートル間隔実施
- 六、全との建物ドアノブ・  
部品等々除菌

※疫病退散・御守護を願う御守、授与致しております。

当宮・御祭神 德川家康公は百年以上に亘る戦国動乱の世に終止符を打ち、二世紀半余り続いた江戸幕府の礎を築かれました。令和四年で、初代將軍・徳川家康公御生誕、四八〇年となります。

伊賀の國・老川の里に家康公をまつる全国東照宮の一社です。

御神徳 平和の神様・強運・諸願成就

令和五年の徳川家康公大河ドラマの放送は、大いに期待をすることろあります。



## 伊賀東照宮

〒518-0219 三重県伊賀市老川1103-2  
TEL 0595-55-2512 FAX 0595-55-2918  
<http://www.iga-toushougu.com/>

※特別祈禱・各種ご祈祷致します。  
お気軽にご相談ください。  
※各種出張祭を受付けております。  
地鎮祭、解体祭、入居祓、竣工祭、宅神祭、  
神棚の月参り等

七五三のご祈祷 年内受付けております。

**ホームページ**  
[www.iga-toushougu.com](http://www.iga-toushougu.com/)

**You Tube**

開設しています。是非ご覧下さい。

自然豊かな神域に權現信仰を伝える

伊賀東照宮

TOP PAGE

京都市伊賀市伊賀東照宮は、1977年（昭和52年）に創建された神社です。

創建にあたって、創祀者・坂野つなへ氏が日光東照宮からご保神徳川家康公の御分靈を受け、天照坐皇大神、天御中主大神、大御主命、天神命とともに奉祀しております。

三重県内はもとより東海・近畿地方から多くの参拝者の方々にお越し頂いております

| 伊賀東照宮からのお知らせ

- 2020/10/13 伊賀東照宮第一回会報を公開しました。
- こちらから御算下さい。
- 2010/03/25 リンク先ページ公開しました。
- 2009/12/22 三重県伊賀市の神社「伊賀東照宮」のホームページを立ち上げました。

| 行事案内

| お申付け / イベント案内

| ご案内

| 交通事故予防周辺

| お問い合わせ

| リンク先

伊賀東照宮は、1977年（昭和52年）に創建された、比較的新しい神社です。

創建にあたって、創祀者・坂野つなへ氏が日光東照宮から御分靈を受け、天照坐皇大神、天御中主大神、天神命とともに奉祀しております。

その後、出雲大社から大内氏の御神像を移せし、合祀せし奉祀し、境内社として火之神、火之御貝土神、水之社、稻葉御神を祀ります。

崇敬者から無い奉納を振り、社殿を建立、境内を整備し、

ホームページトップ画面

**令和の御代の記念事業**  
「目標予算金額 2千万円」

**【工事概要】**

- 一、本殿床張替工事
- 一、道路沿いトイレを水洗に改築  
(障害者の方に安心して御使用いただける工事)
- 一、社務所改築工事
- 一、直会会館一階天井張替工事
- 一、境内、古木伐採工事等

第1号会報にお知らせより御崇敬者皆様には既に建設御淨財金を御奉納いただきました御社様、御崇敬者各位様には厚く御礼申し上げます。

しかしながら、現在工事資金不足額が困難を極めています。世情厳しい状況下で有りますが何卒皆様の一層のお力添えを賜りたく茲にお願い申し上げます。